

LAC Newsletter 国際教養コースだより No.4

Hyogo Prefectural Takarazuka Nishi Senior High School

March 20th, 2019

☆Ms.Takahashi (2-7) passed EIKEN Grade Pre-1! LAC 高橋さんが英検準1級合格!

英検準1級とは、CEFR(セファールという言語共通指標)で英語の4技能においてB2(大学中級程度)とみなされる非常に高いレベルです。まずは高校在学中にB1レベル取得を目標にしましょう。

高1生は、2020年の大学入学共通テストに加えて外部資格検定試験の受験が必須となり、多くの大学でCEFRのA2以上のレベルの取得が要求されるので、今から準備が必要です。

CEFR	英検の級	英検 CSE Score (Common Scale for English)	2018 までの GTEC Score (～980) 320 点 x 2 技能 R/L 170 点 x 2 技能 W/S	2019 年度からの GTEC Score (～1280) 4 技能は全て 320 点満点
C1	1 級	2600～3300 *2630 合格	*判定には GTEC CBT の受験が必要	
B2	準1 級	2300～2600 *2304 合格	Grade 7 (880～980)	Grade 7 (1190～1280)
B1	2 級	1950～2300 *1980 合格	Grade 6 (760～879)	Grade 6 (960 ～1189)
A2	準2 級	1700～1950 *1728 合格	Grade 5 (650～759)	Grade 5 (690 ～ 959)

How did Ms.Takahashi make such a great success? 高橋さんにどんな取り組みをしたのか伺いました。

「私が準1級を取ることができたのは、上本先生と日々の学校の取り組みのおかげです。Reading と Listening は半分と少しでしたが、Writing で満点を取ることができました。LAC 英表II (Essay) の授業で正式な essay の書き方を1年間かけて学び、毎週出されていた essay の宿題に真剣に取り組みました。そして何より、ダイアットの授業で取り扱った論題と、今回の英検の essay のテーマがほぼ同じだったので、習った単語や基本的な知識、また、試合に向けて調べていたことをすべて書くことができたので点数につながったと思います。日々めんどくさいなと思っていてもあきらめず、何事にも一生懸命取り組むことが大切だと感じました。私は、単語帳は「でる順パス単」を使っていました。勉強を始めたのが遅かったので全部はできていないけど、A～B レベルは何度も反復して覚えました。覚えられないものは単語カードに書きました。予想問題集の essay 問題は、全部一度自分で書いて先生に添削してもらって、書き直しました。二次試験は、過去問については、自分の意見を言えるようにして、メモを取っていました。最初はグダグダでしたが、練習を重ねて少しずつできるようになりました。練習の時、上本先生がとても怖くて圧をかけられたけど、おかげで本番の面接官がやさしく思えました！」

☆Great Achievement in the 2nd GTEC Speaking Test 2018 (スピーキングテストで成果)

Perfect scorers (170/170) : Ms.Kato, Ms.Goto, Ms.Sazanami, Ms.Shin, Ms.Nakao

Close to perfect (169/170) : Mr.Wakida

2月にLAC1,2年と普通コース1年9名がGTEC Speaking Test 2回目を受検し、平均値が半年で、2年で118.2→150.1、1年で106.8→131.3 となり、大きく向上しています。成果が出ている人は、他の3技能も伸ばしましょう。もっと成果を上げたい人は、まず、基本英文(テキスト)の音読と暗唱(丸暗記でなく、日本語をすぐ英語に変換する力をつける)、単語熟語テストの復習(語い力アップ)をちゃんとやり直してみよう。3年生の中には、毎朝B棟のトイレの前で英語のテキストの音読を繰り返しやっていた人たちがいます。その1人(関学法学部他合格)は、「学校でも塾でも英文の音読を繰り返しやらされたが、音読で英語の力はついたと思う」と述べています。手持ちの教材で繰り返しできる勉強は色々あります。(春課題ももちろんですよ!) さあ、次のGTEC(3年は6/15 1,2年は7月)や英検(6/2)を意識して頑張ってみよう!

☆2nd-year LAC Team reached the quarterfinals in Hyogo Debate Contest!

Topic (論題) : Japan should legalize voluntary active euthanasia. 「日本は安楽死を合法化すべきか」

2年7組ディベートチームは、予選で、報徳学園・芦屋国際中等学校に1勝1敗、グループ内2位となって決勝ラウンド（準々決勝）で姫路西高校と対戦。参加19校中ベスト8という好成績を残しました。決勝は葺合高校と神戸大学附属中等学校との対戦で、葺合高校が優勝しました。出場者のコメントを紹介します。

「私にとっては、ディベートコンテストに出場すること自体、勇気のいることでした。自分の英語力を向上させるために出場することを決め、今では挑戦してよかったと思っています。相手チームの英語力の高さに圧倒されることもありましたが、それが大きな刺激となり、これからの英語学習の励みになりました。長期間手厚くサポートしてくださった先生方と、お互いに協力し合ったコンテストのメンバーに感謝します。」

「このコンテストを通じて、英語力はもちろん、論理的に考える能力が身についたと思います。仲間とともに毎日懸命にディベートの練習をした日々は私にとって大切な宝物です。」



☆ 3月4日 LAC (1-7) JICA(Japan International Cooperation Agency)関西訪問

国際協力機関のODA（開発途上国援助）の取り組みと青年海外協力隊体験談を伺い、日本や他国のSDGs(持続可能な開発目標)の達成度について班討議を行いました。以下は生徒の感想の抜粋です。

「SDGsの17項目をすべて達成することはとても難しく不可能に近いと思います。しかし、1つでも改善へと進めることで課題解決への一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。東日本大震災の時、多くの国の支援によって多くの人が救われたのだと思うと、その国々が同じような困難にぶつかったとき、日本は可能な限り支援をすべきだと思います。「自分だけよければよい」ではなく、互いに助け合って向上させていくべきではないかと思います。貧困、教育、紛争などとても難しいテーマですが、自分にできること、例えば講師の遊川さんのように日本語を教えることや、食料の提供などで1人でも救えたらいいなと思います。」

「今までSDGsについて学んできても、どうやってこれらの目標を達成しようとしているのかわからず、SDGsのターゲットを見聞きしてもピンと来なかったけれど、今回の校外学習を通して、どういったことが実践されているかがわかった。国際機関がどんな活動を行っているかについて学び、私は海外協力隊の活動にとっても魅力を感じた。日本は、SDGsのジェンダーに関する問題が不十分だと知った。」

「私が最も印象に残ったのは、東日本大震災の話です。日本は医療が発達しており、途上国の手伝いばかりしていると思っていましたが、174か国もの国や地域、43機関が1640億円もの援助をしてくれていたと聞いて、日本もたくさんの途上国からも助けられていて今があるのだと思いました。途上国は自国をよくするために精一杯だと思っていたので、日本ももっと役に立っていかないといけないと思いました。施設見学では、JICA海外協力隊は、近畿で67か国367人ボランティア派遣中とあり、全国ではもっと多くの援助ができていたと思ったけれども、現在の状況では世界はまだまだ貧困で教育を受けることができない子どもがたくさんいることや5歳未満で亡くなってしまいう子どもも多いと聞き、世界が平等になることは簡単なものではないと思いました。」

